

平成30年度「飼料用米多収日本一」コンテスト受賞者の取組概要

茨城県農業再生協議会長賞 小吹 長二郎(石岡市)

品種	作付面積	単収	地域の平均単収からの増収
オオナリ	1.9ha	706kg/10a	191kg/10a

【取組の理由・作付品種】

- ・倒伏しにくく栽培しやすく、「コシヒカリ」より収量が高いため収益が確保できて経営が安定する。
- ・平成25年から飼料用米として「タカナリ」等の生産を開始。
- ・H29年からJA等のアドバイスにより、耐倒伏性に優れ「タカナリ」の脱粒性を改善した多収品種「オオナリ」を導入。水稻作付面積の7割強を飼料用米に切り替えた。

【取組概要】

- ・田植: 5月22日と5月27日
- ・堆肥: ケイフン250kg/10a(1.6ha分)
- ・基肥: 飼料用米専用一発早生用(27-5-3)32kg/10a(窒素8.4kg/10a)
- ・追肥: 8月5日 尿素(46-0-0)10kg/10a(窒素4.6kg/10a)
- ・一発肥料を使っても、生育状況によって、追肥を行う。
- ・高密度播種育苗(乾籾250g/箱)と疎植栽培(45株/坪)を組合せて、苗箱数12枚/10aで移植。慣行比67%に削減。
- ・追肥には安価な肥料(尿素)を使用し、肥料費を節減。
- ・育苗、田植、収穫、乾燥、調製等の主要な作業を共同で実施。それに用いる機械・施設を近隣農家で共同利用。
- ・籾出荷。フレコン出荷。

鹿島地域飼料用米生産利用推進協議会長賞 柳橋 隆博(常陸太田市)

品種	作付面積	単収	地域の平均単収からの増収
夢あおば	6.8ha	681kg/10a	152kg/10a

【取組の理由・作付品種】

- ・収量の安定・予測がしやすくなる。
- ・主食用米との収穫時期の分散により作業競合が起こらなくなる。

【取組概要】

- ・播種: 140g/箱
- ・施肥: BBファイト(30-6-6)37.5kg/10a(窒素11.25kg/10a)
- ・株間: 24cm(H29)から21cm(H30)へ変更(分けつが少ない為、疎植をやめ、分けつ数・穂数を確保)
- ・省力化の取組として、基肥一発肥料を使用。
- ・近年の高温による早期の肥料切れ防止対策として、代かき直前の肥料散布を行い、窒素の流亡をできるだけ少なくすることを心がけている。

協同組合日本飼料工業会企画振興委員長賞 株式会社 レイクフォー(行方市)

品種	作付面積	単収	地域の平均単収からの増収
あきだわら	10.3ha	672kg/10a	130kg/10a

【取組の理由・作付品種】

飼料用米として知事特認品種の「あきだわら」や、主食用品種の「ゆめひたち」、「チヨニシキ」等の生産に取り組んできており、安定的に多収であるため飼料用米面積の大半を「あきだわら」に切り替えた。

【取組概要】

- ・「あきだわら」を4月下旬、早生品種5月上旬、中生品種5月中旬に移植することで、収穫時期の作業効率向上および十分な登熟期間確保による収量向上を図っている。
- ・高密度播種育苗栽培技術(230g/箱)に取り組み、10aあたりの苗箱使用数を11~12枚に削減。
- ・PKセーブ一発肥料の予約注文で肥料代を節約。